

皆様、こんにちは。

今日はお忙しいところ、千葉県CKD対策協力医のWEB講習にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、千葉県医師会学術担当理事をしております、日比野久美子と申します。よろしくお願いいたします。

慢性腎臓病、いわゆるCKDは、日本で1330万人の患者さんがいるといわれております。これはまさに、成人の8人に1人という割合だそうです。

そして、重症化いたしますと、さまざまな心血管イベントを併発したり、また、腎臓移植や透析など患者さんの生活が侵されてしまうという大変怖い病気であります。この重症化予防につきましては、国も本腰を挙げてきておりますが、千葉県としても、この政策には早くから取り組んでまいりました。

ここにありますように、第1回の重症化予防の対策部会というものが、令和2年に開かれまして、たくさんの方々にご参加いただいているわけですが、この部会長は今日ご講演いただきます今澤先生、そして副部会長は千葉県医師会から私が参加をしております。

この名簿を見ていただきますとお分かりのように、今日ご講演をいただきます腎臓専門医の先生方だけではなく、糖尿病の専門医の先生をはじめとして、千葉県医師会、そして千葉県薬剤師会、そして行政、保険者、さまざまな立場からたくさんの方々にご参加をいただき、どのようにしたら千葉県で重症化の予防ができるかということとずっと討議をしてきらわけでございます。

そして、その一つがですね、今回柱となります、このCKD対策協力医をつくろうということになったわけです。

この協力医につきましては、これから先生方から詳しいお話があると思いますが、概略を述べれば、国保から抽出された重症化の可能性のある患者さんが協力医の先生方に受診勧奨をされます。そして、いらっしゃった患者さんに関して、これからお話のある検査をしていただき、ある一定の基準を満たした場合には、速やかに腎臓の専門医の先生にご紹介をいただくというのが仕事です。

また、それに加えて、薬剤の投与の立場から薬剤師の先生、薬局の方から、この薬使ってもいいのでしょうか？とかですね、量はどのなのでしょう？という疑義照会に対して、お答えをいただくというのがCKD対策協力医ということになりまして、まさにこの政策の要ということになるわけです。

ただ、ここで重要なことはですね、この8人に1人というCKDに対して、重症化を予防するには、一部の先生方だけの努力だけではだめだということです。専門科に関係なく全ての先生方が、このCKD対策にご興味をもっていて、今日このWebを聞いていただいて、一人でも多くの先生が登録医になっていただくということこそが、千葉県における重症化の予防対策の要であると私は信じております。

そして、今日この講習会の内容でございますけれども、3人の先生方にお話をいただきま

す。

まず、トップバッターは、千葉大学腎臓内科の教授でいらっしゃいます浅沼先生から、「CKD対策と協力医の必要性について」というお話を賜ります。

そして、対策部会の部会長とご紹介させていただきましたが、日本腎臓病協会慢性腎臓病対策部会千葉県の代表であり、また、国立病院機構千葉東病院腎臓内科の部長でいらっしゃいます今澤先生からは、「CKD対策協力医との連携による千葉県CKD対策」についてのお話がございます。

そして、最後でございますけれども、帝京大学ちば総合医療センター第三内科、腎センターの教授でいらっしゃる寺脇先生より、「この対策が目指す未来」ということで3人の先生方にご講演をいただいております。

ぜひ皆様、ご視聴いただいて一人でも多くの先生方が、この協力医にご参加いただきたいと思います。

それでは3人の先生方、よろしく願いいたします。